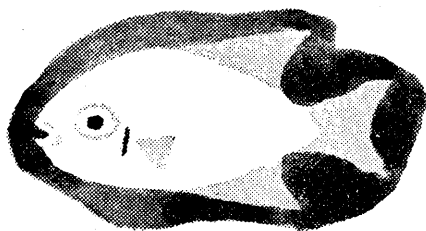


昭和三十年度研究 集会をかえりみて

玉
越
三
朗



今年の幼稚園研究集会も無事に終わりました。神奈川（鎌倉市）および岡山（倉敷市）両会場とも、例年にはない参加者のよき事前研究と積極的な研究態度および指導者司会者のよき援助によって、今までにない成果が得られました。以下本年度の実施の重点や研究成果の概要等について、今後参考となると思う点を述べてみましょう。

一、研究集会の目的

研究集会の目的は例年のように「幼稚園教育の当面する諸問題をとりあげ、これを参会した教職員の共同研究によって解決し、その成果を実践の場に普及して幼稚園教育の振興を図る」としました。従来は、参加者がこの目的をじゅうぶん理解しないで参加し、参加としての協力的態度や研究がふじゅうぶんであった人がいたので、よい成果があらなかったらみがありました。そこで今年には事前に各都道府県へお願いして、じゅうぶんこのことを理解して参加するようにいたしましたところ、各自がその研究問題について事前に非常によく研究しプリントして来ました。またその研究態度も「参会した教職員の共同研究によって解決する」という趣旨をよく理解して常に積極的に大変よい成果があげられました。これは、本年度研究集会の大きな成果の一つでした。

二、研究主題の選定

研究問題は、幼稚園教育の当面する諸問題をとりあげるのであるが、それは幼稚園教育の振興を図ることに重点が置かれなければ

ばなりません。そこで現在問題となっていることをこの観点からいろいろ検討しました結果、(一)直接幼稚園の教育内容や指導を向上させるための問題。(二)間接的に幼稚園教育を向上させる、つまり幼稚園をとりまく社会についての問題をとりあげることになりました。そこで(三)については大体経験領域をもととして四問題(四)については家庭教育について一問題とりあげることになりました。以下各問題をとりにあげた趣旨を簡単に述べてみましょう。

1 幼児を集団生活に参加させるにはどのような方法が適切か
幼稚園の使命の一つは、特別につくられたよい環境の中で幼児同志の集団生活をさせることです。この集団生活に参加できるようにさせることは幼稚園の任務のうち大きなものです。そこでこのような集団生活に初めて参加する幼児を一体どのように指導したらその目的がじゅうぶん達せられるかについて検討してもらうことにしました。また、一般的な参加のさせ方をして指導してもどうしても参加できないような幼児については、特にどんな点に留意して指導したらよいかを研究してもらうことにしました。

2 遊具による健康の指導はどのようにしたらよいか

遊具は幼児の健康の増進になくはならないものですが、その使用法や指導法については従来あまり研究されていなかったの、前年に引続いて今年もさらに検討してもらうことにしました。

3 数遊びの指導はどのようにしたらよいか

幼稚園ではとかくこの指導に適正を欠いて幼児の成長発達を度

外視して数字を書かせたり、数を唱えさせたりすることがあります。この傾向が最近特に目立って来ましたので、幼稚園の正しいあり方から考えて、数遊びをどのように指導したらよいか、また数遊びの内容上の限界をどこに置かかなどについて検討してもらうことにしました。

4 言葉の指導はどのようにしたらよいか

(神奈川会場のみ) (省略)

5 自然の指導はどのようにしたらよいか

(岡山会場のみ) (省略)

6 幼稚園教育の効果をあげるために家庭教育との関連をどのようにしたらよいか

幼稚園がその教育目的を達するには、幼稚園で行う教育と家庭で行う教育とが有機的に関連しなければならぬことはいうまでもありません。ところが現在ではそれどころか、家庭の一方的な幼児観を幼稚園に押しつけ、幼稚園がこの要求に堪えきれないで本意ながら幼稚園本来の使命を変更していくというようなことも起ってきています。そこで家庭の無理な要求をどのように防いだらよいか、また幼稚園の正しいあり方を家庭に理解させるにはどうしたらよいかについて検討してもらうことにしました。

三、研究結果の概要

1 幼児を集団生活に参加させるにはどのような方法が適切か

(神奈川)

(1) 入園時における指導はどのようにするか

(一) 家庭との連絡をじゅうぶんとする。

入園前の調査をよくする。保護者が子どもの理解を誤っていることが多いので啓発する。

(二) 幼児を受け入れるための環境構成をする。

(三) 入園当初の教育計画を生活指導を重点としたものとする。

(2) 集団になじまない子の指導

(一) 教師が安定感をもって接する。

(二) 技術的注意をじゅうぶんとする。

作業による方法、グループによる方法、童話スライド等による間接的指導などをその子に即して活用する。

(三) 教師の手におえない幼児は外部諸機関との連携、両親教育の推進を図るようにする。

〔岡山〕

(1) 入園当初の指導はどのようにしたらよいか。

(一) 幼児に早く新しい集団の中において安定感をいだかせる。

(二) 入園当初集団生活のきまりを身につける。

(2) 幼児教育における集団の構成はどうすればよいか。

(一) 組編成は年令差あるいは一年保育では月令差によることが妥当で、それに地域差を加味する。

(二) 自由遊びにおいては、遊びの種類によって異なるようにする

(3) 特殊な子どもの指導はどうするか、

(一) 正しい診断によって原因を早く発見する。

(二) 環境条件によって治療可能なものはその方法を幼児に即して考えるが、素質的条件によるものは適当な機関と連絡して治

療する。

(三) 小学校へ進んだ時、連絡ふじゅうぶんで逆戻りする場合はあるから、注意を要する。

(4) 集団生活を助成するための環境はどのようにすべきか(省略)

2 遊具による健康の指導をどのようにしたらよいか

〔神奈川〕

(1) 健康増進を考えると考えられ、一般的に使用されている遊具の種類にどんなものがあるか。

(2) 健康増進を推進させるために必要な遊具の使用法。

(3) 将来正しい健康指導を行う上に必要な遊具の使用。

(一) 幼児の遊具使用の選択

(二) 幼児が用いる遊具の使用時間

(三) 遊具の種類および設置数と園児数との関係

(4) 遊具が健康を増進させたかどうか。

〔岡山〕

発達段階、健康指導、安全教育、利用度についての観点から次の遊具の検討をした。

(一) 固定遊具(戸外)

(二) 移動遊具

(三) 室内遊具

(四) 施設

(五) 教師の手による創作遊具

3 数遊びの指導はどのようにしたらよいか

〔神奈川〕

(1) 数の指導の限界をどのように考えるか。

(一) 数を唱えたり、数えたり、読んだり、書いたりする。

(二) 数の採作（計算の素地）をする。

(三) 測定について理解し始める。

(四) 表を作る。

(五) 分数の素地について知る。

(六) 身近な問題を具体的に解く能力を伸す。

(七) 物の形を区別する能力、幾何図形を認める能力を伸し始める。

(2) 数の指導の方法

(一) 数遊びの種類

(二) 個人差に応ずる指導

(三) 数遊び指導上の留意点

〔岡山〕

(1) 幼児の数に対する関心を高めるにはどうしたらよいか。

(2) 数遊びを通しての数量形の指導はどのようにしたらよいか。

4 言葉の指導はどのようにしたらよいか

〔神奈川〕

(1) 所謂幼稚園言葉をいかにしたらよいか。

(2) 「語らい」を豊富にするためにはどんな方法があるか。

(3) 書き言葉（文字）の指導の可否。

(4) 話し言葉（発表能力）の指導はどうすべきか。

(5) 語感の矯正指導はどうしたらよいか。

5 自然の指導はどのようにしたらよいか

〔岡山〕

(1) 自然の指導のために環境をどのように整えたらよいか。

(2) 幼児の発達段階に即した「自然」の指導内容はどの程度にしたらよいか。

(3) 教師の研修の機会や方法はどのようにすればよいか。

6 幼稚園教育の効果をあげるために家庭教育との関連をどのようにしたらよいか

〔神奈川〕

(1) 正しい幼稚園教育と必要性とをいかに家庭に理解させ協力させるか。

(2) 地域社会との関連をどうするか。

(3) 卒業生との連絡をどうするか。

〔岡山〕

(1) 家庭教育の実態把握の方法はどうしたらよいか。

(2) 経済状態並びに教養の程度により幼稚園教育に消極的な保護者に対してはどうするか。

(3) P・T・Aの組織運営並びに各種の会合を実質的、効果的にするにはどうしたらよいか。

(4) 幼稚園教育の本質を一般の保護者にじゅうぶん理解させるにはどうしたらよいか。